



ENOKI

えのき



みんな集まれ！釣り大会

6月15日(日)の父の日に、親子で楽しめるイベント「みんな集まれ！釣り大会」が育成委員会主催で、市ヶ谷の釣堀で開催されました。

天候に恵まれ、大会は大盛況でした。何度も参加している人、初めての人、釣れた人、釣れなかった人と様々でしたが、皆で鯉釣りを楽しみました。

中学生の部の優勝は奈良部秋穂さん、準優勝は佐々木織月君、三位は姜錫玄君。小学生の部の優勝は武富亜美さん、準優勝は福島拓実君、三位は長井俊祐君でした。

「釣り大会に挑戦」牛二中一年 古川太郎

結論から言っと、僕は魚を釣れなかった。なぜかと言われても理由は分からないが、とにかく僕が魚を釣れず毎年「釣れなかった」と言うのには慣れてきた。従って、僕は悔しくはない。悔しくはないが、嬉しくもない。プラス思考の僕は、これを恒例行事としてあつかっている。魚が釣れないのをいかに耐えられるか、という恒例行事だ。なので、総合的に楽しい。楽しいから参加したのだ。

長ったらしく言ってきたが、全体の感想は「面白い」だ。僕の感想の選択肢は面白い、普通の二つ。今回は面白いに当たった。

「つり大会」早稲田小三年 西澤栄輝

6月15日に、ぼくはつり大会に行ってきました。去年と、おと年はゆうしゅうしました。今年も、がんばりましたが、4ひきしか釣れませんでした。しかし、友達がたくさんいて楽しかったです。

ぼくは、ゆうしゅうできませんでしたが、早稲田小学校の竹とみさんがゆうしゅうしました。来年は、ゆうしゅうできるようにがんばります。

地域で子どもの安全を守る

ピーポ110ばんのいえ

皆さんは、左にあるイラストが入ったシールを見たことがありますか？。これは、警視庁のマスケット「ピーポくん」のシールです。路上等で子どもたちが不審者に遭遇したり、危険に直面したときに、このシールを貼ってあるお店や家に助けを求められます。このシールがあるところは「ピーポ110ばんのいえ」として、安心して助けを求められる緊急時駆け込み場所であることを表示しています。いざというときは「交番」のように頼りになり、普段は、地域の子どもたちを、見守る目としてご協力をいただいています。



*子供の安全対策として、平成9年から新宿区・警察署・地区青少年育成委員会・町会連合会・PTAなどが協力して開始しました。

	店舗等	一般家庭	合計
牛込署	188	45	233
新宿署	184	26	210
戸塚署	153	125	278
四谷署	280	4	284
計	805	200	1005

新宿区内「ピーポ110ばんのいえ」に指定されている店舗、家の数

馬場下町の交差点近くの「ピーポ110ばんのいえ」酒屋の「小倉屋」さん、栗林さんのお話を伺いました。

「幸いと言いつか、まだ一度も子どもが駆け込んで来たと言ったことはないがね。でも、私もこの地域で生まれ育ったものだし、子どもの安全・安心のことはとても気になるね。シールを貼ってあるからといって、簡単に子どもたちが駆け込んで来られると言つものでもないだろうと思う。やはり、日常的な顔馴染みになっていないと難しいんじゃないかな。」

ああ、そうそう、お店に来た親子連れが、シールを見て『子どもがお世話になっています。よろしくお願いします』と言われたことが数回あるが、うれしいね！

※「ピーポ110ばんのいえ」のことは、まだまだ知られていないのではないのでしょうか。学校の先生・PTAの方との連携を一層強めていくことが大切だと思います。

しるまき学校サロン

第四水曜日の午後は鶴小へ行こう！

鶴巻小学校を会場とした子どもたちと地域の方々の交流の場「しるまき学校サロン」の定期開催が決まりました。毎月第四水曜日、午後2時から4時までです。どなたでも自由に参加できますので皆さん、ぜひお越しください！

詳しい内容は各町会の掲示板に貼られるチラシでご確認ください。

*7月23日(水)・8月27日(水)
9月24日(水)・10月29日(水)
の午後2時～4時

*参加費 大人 100円
子ども 無料

お父さんがつくる
チャーハン教室！



6月2日(土) 鶴巻小学校・家庭科室

鶴巻小学校PTAのお父さんの会(代表・長沼宏和)は、鶴巻小に通う児童のお父さんたちの親睦会です。現在まで子どもたちの行事の主催やお手伝い、早大通りサイクルバザーへの出店(そばめし販売)などの活動を行っています。出店で得た収益はPTAへの寄付や行事費用に充てています。

今回、お父さんの会が「お父さんが作るチャーハン教室！」を開催しました。これはお父さんが家庭でおいしいチャーハンを作るように企画した料理教室です。集まった参加者はお父さん10名、お母さん3名、子どもたち8名、渡島副校長先



生の総勢22名でした。講師は、お父さんの会を代表して、早稲田鶴巻町で飲食店を経営している白井達昌さんに指導していただきました。

まず、白井講師の豚肉ブロックを茹でる「ゆで豚」作りを見学。続いて参加者全員でチャーシュー用の豚肉ブロックをフライパンで焼き「手作りチャーシュー」作りを体験。次に広い用途に使える「万能中華ダレ」を全員参加で作りました。そしてメインのチャーハン作りです。使用するチャーシューはもちろん出来たての「手作りチャーシュー」です。子どもたちも協力して、参加者全員がチャーハンを調理しました。出来上がりはみんなですく。同じ材料、同じ調理器具を使っているのに、それぞれの味に個性がありました。最後はカニカマと春雨を使って「カニとワカヒレ風あんかけ」を白井講師が作り、みんなであんかけチャーハンを楽しみました。碎いたコーンフレークをトッピングして、あんかけと混ぜると新たな食感になり子どもたちに好評でした。ぜひお試しください。

*鶴巻小学校PTA・お父さんの会では常にメンバーを募集しています。



お申込み・お問い合わせは左記のメールアドレス ottousan@mac.com までご連絡ください。

早大通りに散乱する ゴミを清掃する 子どもたち

6月4日に早稲田の早大通りで、鶴巻小学校の子どもたちがゴミ拾いの地域清掃を行いました。鶴巻小学校での地域清掃はJRC(青少年赤十字)の一員として10年前から続けられており、一時活動を休んでおりましたが平成16年度に再開しました。

早大通りはケヤキ並木が道路中央に並び美しい大通りです。その歩道には、しだれ桃の木などが植えられていて、広く歩きやすいきれいな歩道です。そこに無造作に捨てられるゴミを鶴巻小学校の子どもたちが一生懸命、清掃してくれました。

全校生徒が各班に分かれて、6年生を班長として担当の通りを午後1時20分より清掃を開始。実質20分ほどゴミ拾いを行いました。



▲早大通りのアイドル犬オダマキと一緒に



空き瓶や空き缶、ペットボトル、ビニールのゴミやたばこの吸い殻などいろいろなゴミが捨てられていました。筆者が取材した班では、近頃は少なくなつた歩道上でのタバコの吸い殻は、私有地の駐車場や目の届きにくい植え込みの土に捨てられていました。植え込みには見えないように瓶や空き缶、ビニールゴミなどが捨てられていて、子どもたちが短い腕を伸ばして、一生懸命ゴミを集めていました。見えなければゴミを捨ててもいいのでしょうか?「ビニール、ビニール」と声を掛け合いながら、子どもたちがどんどんゴミを集めていきます。子どもたちは誰がこのゴミを捨てているのかは分からないようです。

鶴巻小学校は「ゴミのポイ捨てを撲滅するために活動をしているわけではなく、自分たちの住んでいる地域の役に立つことをしよう」という趣旨で「社会奉仕の精神を養う」地域を愛する心を育てる「JRCのメンバーであることへの自覚を高める」ことをねらいにした活動です。大人も学生もいつまでも子どもたちに甘えているわけにはいきなりはせず、子どもたちまで「ゴミのポイ捨て」という悪い行為をしないように願っています。

子どもたちは、鶴巻小学校の先生方、地域の皆様から指導され道徳を守りながら育つことができました。

江戸川小学校 親子デー

「クラフト教室」



▲食べたくなるような作品ができました

江戸川小学校校舎内にある「自由の部屋」や「体育館」で、月2回の「書道教室」や年4回の「お楽しみ会」など、親子で楽しめるイベント活動を行っています。

6月8日(日)は、在学生のおばあさまが先生をしてくださり、粘土細工の「クラフト教室」を行いました。

材料は軽量粘土(4、5色)、のり(ボンド)、ヘラ、つまようじ、細い針金、シッカロールなど。身近にある材料でさまざまなものがあったより簡単にできました。

一番人気は食べ物とお花。ケチャップ、レタス付きのオムレツやマグロ握り・太巻きなどのお寿司、シッカロールをまぶした本物顔負けの粉砂糖付きケーキにペロペロキャンディ。夕方にはお腹がすいてきちゃいました。お花ではバラの美しかったことーそれぞれに表情の違う花びらが織りなすハーモニー。まだ蕾の状態のバラも奥ゆかしく素敵でしたが満開のバラも高く鮮やかでした。

小学生の個性あふれる作品、想像力の豊かさに感動すると共に、付き添ってきたはずの大人の熱中ぶりも見られた大盛況の日曜日の午後でした。



伝承の技⑥

フランスパンの味に拘る店

ポドヴァンセンヌ

早稲田町にある手作りパン屋さん「ポドヴァンセンヌ」はフランスでパン作りの極意を学んだ倉林秀明さんが昨年12月にオープンしたお店です。

倉林さんは以前にも現在と同じ場所から「最高のパンを作りたい」という大きな望みを持っていました。「フランスパンを作るのならフランスへ行くしかない」と決断し、家族とフランスに渡りました。

フランスでは友人に紹介されたパン屋さん(ブーランジェリー)に入り、朝から晩までパンを焼いていました。その間、フランスのルーアンとスイスの国立製パン学校でパン作りを学びました。

パンの材料は粉・酵母菌・水・塩等ですが、フランスパンを作るにはフランスの土質・気候・水等、風土の産物である素材が必要であることを学びました。

帰国後は一時、盛岡にお店を開き、年からは早稲田町の以前と同じ場所にお店を開きました。

気候風土の違う日本において、良いパンを作るには良い素材が必要です。しか



高知から修行に来ているお弟子さんにパンの焼き具合を教える

し、日本では本場フランスの食材を全て揃えることはできません。そこで倉林さんは国産の良い食材を選び、本場のフランスパンの味と香りのある美味しいパンを作りだしています。



熟練の技でフランスパンの形を作っていく倉林さんと息子さんの真之介さん(28歳)

パン屋さんの朝は早く、8時の開店に合うように4時には作業が始まります。

アンパン、クリームパン、クロワッサンやデニッシュなどは4時間余りで作られ、開店と同時に来店するお客さんに販売します。メインのフランスパンや食パンは、素材の混合、こね上げ、発酵などに三時間余りを費やします。その後、生地を分け、再発酵させる作業を繰返し行い、成形して最終発酵させた後、焼き上げるので、でき上がるのは10時過ぎになります。このように手間と時間を掛けて、豊かな深い味のあるパンが完成します。

11時から12時の間は、お客さんで店内は混雑します。午後になると、クッキー作り、クリーム作りに移り、その後、翌日の作業の準備をして、6時から後片付けに入り、7時に閉店。忙しいパン屋さんの一日が終ります。

早稲田町5 TEL3209-1531 午前8時~午後7時営業 日・祝休業

オリンピックの話③

中国のメダル獲得一位?

早稲田大学名誉教授
東京都卓球連盟名誉会長

森 武

初めに、北京オリンピック開催を目前にしている四川省大地震、中国の皆さんに心からお見舞い申し上げます。報道によれば関係者はもちろん、多くの国民も初のオリンピック開催を成功させたいという願いが強いようですが、ぜひとも頑張ってください。

さて、オリンピックとなれば、大きな関心事はその国のメダル獲得数があげられると思います。はたして開催国の中国はどうでしょうか。また日本は?。下馬評では常勝アメリカを抜いて中国が一位になるのではないかなどと言われています。ここで前大会アテネ大会のメダル数を見てみましょう。

表のようにアメリカは3回連続してメダルと総メダル獲得数(金・銀・銅)で一位という圧倒的な強さを示しています。ロシアもその前に一位や常に上位を占めてきていますが、中国もシドニー大会(2000年)で3位、アテネ大会では2位と順位を上げてきています。

国名	金メダル	順位	メダル合計	順位
アメリカ	35	1	103	1
中国	32	2	63	3
ロシア	27	3	92	2
オーストラリア	17	4	49	4
日本	16	5	37	6
ドイツ	14	6	48	5

因みにオリンピック種目になるには、例えば男子の場合は4大陸72カ国以上の国が行っている競技でないといけないという原則があるため、アテネ大会は28競技301種目で、北京大会は28競技302種目で争われます。

開催国の中国は全種目に参加できるといふ有利さの他に、経済発展も著しい中で強化面にも予算を掛けています。さらに競技スポーツ思考、すなわち勝つことを最高のものとするムードも強く、選手も国民も思想的に勝つことに期待感を持っています。この両面から、まずアメリカの金メダルを抜き、一位になる可能性は充分あり得るとみえました。どうなるでしょうか。

競技ですので、いついかなるハプニングがあるかも知れません。また多くの応援や期待が返って選手プレッシャーになってしまうことも考えられます。これらの条件のもとに、アメリカはいかに戦うか、ロシアはどこまで粘るか。また、アテネ大会では予想以上の好成績で5位で、それまでは17位、23位、15位という二桁の順位だった日本は、お家芸の柔道や水着で話題になっている水泳がどこまで頑張れるか。2016年の東京オリンピック開催の実現に向けて、日本選手団の活躍も期待しています。(次号に続く)



▲北京オリンピックのグッズ

ふれあい福祉まつり

榎町町会・東榎町町会
中里町町会・天神町町会
天神東町町会(五町会連合)

6月29日(日)、榎町地域センターにおいて、新宿区社会福祉協議会、原町ホーム地域包括支援センターの協力のもと、五町会連合の「ふれあい福祉まつり」が開催されました。これからの高齢社会に向けて、地域での「支え合い」と「介護予防」を目指し、そのために「地域ができることを考えていこう」という趣旨で始められた催しです。



もらったり、最新型の車椅子に試乗したりして、介護に係わるさまざまなお話を学んでいました。

また、区の健康推進課からいらした管理栄養士の栗本文子さんが「すこやかに長生きするために」という 주제로講演されました。タンパク質を摂取することの大切さや骨粗しょう症を防ぐための食事の取り方等、分りやすくお話いただきました。



▲オープニングを飾ったのは、ミュージック・ラボ「早稲田少年少女合唱団」の爽やかな、美しいハーモニーが奏でる合唱。合唱団結成後、初めての披露となりました。

戦災物故者 慰霊祭



喜久井町町会長 貝田 洋

昭和二十年の東京空襲の際、早稲田大学理工学研究所の敷地地下の防空壕に避難した三百余名(内、喜久井町在住者が百四名)の方が火災と煙に包まれて悲しくも尊い犠牲となりました。それらの人々の霊を慰め、永遠の平和を祈願するために早稲田大学では、防空壕跡地に、そして喜久井町会有志と感通寺では感通寺境内に観音像を建立いたしました。昭和二十三年以来毎年五月二十五日には喜久井町町会で、慰霊祭を行っています。



▲昭和20年5月25日の空襲直後の榎町地区／中央:早稲田小学校

今年には隣接の早稲田南町、馬場下の両町会の町会長さんをはじめ、役員の方に出席いただき、早稲田大学理工学研究所喜久井キャンパス内において早稲田大学と共に、感通寺の新聞ご住職にお経を上げていただきました。その後、感通寺境内の喜久井町観音像にて盛大に慰霊祭を執り行いました。その後、喜久井町民館にて遺族の方や空襲を経験された町民の方々の生々しい体験談を伺ったり、一面が焼け野原の当時の写真を見ながら戦争の悲惨さ、平和のありがたさを時間も忘れて語りあいました。

これからは、体験された方々が少なくなっていくことですが、喜久井町町会では犠牲になられた方々の無念を思い、また、まちの先輩方から引き継いだこの慰霊祭を長く引き継いで行きたいと考えております。



第9回 わくわく何でも体験
「牛だあ!牛だあ!」
牧場へ行こう!

5月11日(日)の母の日、小学3・4年生41名が埼玉県上尾市の榎本牧場に行き、搾乳・哺乳・餌あげ・ブラッシング・バター作り等の酪農体験をしました。

子どもたちが一生懸命に作ったバターの味は格別でした。お家の人に食べさせてあげられないことが残念そうでした。最初は牛に干草をあげるだけで腰を引いていた子ども、牛に慣れてくると平気で触れるようになりました。乳搾りも上手にでき、お乳が出た喜びに加え、お乳の温かさを感じて嬉しそうに笑顔になりました。哺乳は仔牛との力比べで仔牛の吸引力の強さに驚きました。牛の毛は温かく柔らかで、触っていると、まるでお母さんに触れているような安著感に満たされます。

子どもたちは優しい牛さんが大好きになりました。

(主催) 榎地区青少年育成委員会





鶴巻ジャガーズでは、随時新入部員を募集しています。戸山公園や都立のグラウンド、鶴巻小野球教室などで土日に練習を行っています。昨年度牛込A地区大会では、一部(5、6年生二部(4年生以下)でダブル優勝を果たしました！

野球を通して「返事・挨拶・全力疾走・感謝」をスローガンにチーム一丸となって活動しているチームです。是非、見学(体験)にいらしてください。



鶴巻ジャガーズホームページ <http://tsurumakijaguars.sakura.ne.jp/> 連絡先 坂本守康(一部監督) TEL 3232-4886

ちりめん細工

懐古布グループの方々の作品



▲夏を涼しく 団扇のタペストリー



▲七夕飾りに遊びウサギとカニ

えのき文芸

俳句

木の幹に空蝉一つ夏がくる

— 江戸川小六年 荒木陽来 —

あぶらぜみ短い命樂しめよ

— 江戸川小六年 亀倉柁次郎 —

海に行き青い海を見こちよい

— 江戸川小六年 鈴木麻友 —

花火舞う宇宙(そら)にただよう

我をみる

夏の日日陰をさがす齡になり

— 新井 海 —

川柳

葉桜に今日も毛虫の睦む声

一生の涙の量は決まってる

— 伊藤 三十三 —

旅先の親切心地良い土産

湯上りのビールが旨い暑氣払い

— 小山 一湖 —

どうしようキャンプ三日で除隊した

CMの種類で夏を感じ取る

— 長井 開南 —

咲いてみてはじめてわかる木の名前

天降り昔もいまも変わらない

— 廣井 酔狂 —

地域センターからのお知らせ

納涼カラオケ大会

日時 7月27日(日)

午前10時～午後4時

場所 榎町地域センター4階多目的ホール

・皆様のご来場をお待ちしています。

・募集は締め切りました。

アメリカンフラワー講習会

*鉄線花(クレマチス)を作ります。

日時 8月1日(金)午後12時30分～4時

場所 榎町地域センター3階工芸美術室

募集 15名

参加費 500円 材料費込み

持参する物 エプロン・ラジオペンチ・はさみ

申込み 地域センター事務局へ

第6回 榎町地域センターまつり

日時 10月26日(日)午前10時～午後4時

場所 榎町地域センター全館

☆「えのき文芸」に掲載する句を募集しています。

皆さんの身近にあることから「五・七・五」の句にしてみませんか。次号の俳句のテーマは『秋』、川柳は『自由吟』です。投稿はハガキかFAXに、俳句・川柳の別を明記の上、9月20日(土)までに榎町地域センター事務局までお送りください。

☆「家族の肖像」技の伝承」の記事に登場していただけた方、「まちのペット」にペットをご紹介いただける方、情報を寄せてください。

☆広報誌「えのき」に関するご意見やお問合せ、情報提供は、榎町地域センター事務局へ

〒162-0042 新宿区早稲田町85
TEL 3202-8585 FAX 3202-2478